

目 次

はしがき

1 章 国民主権と立憲主義——国家の骨格——	1
1 国民主権と民主主義 (2) 2 民主主義と立憲主義——「最高法規」の意味 (6) 3 立憲主義の確保と権力の分散 (8) 4 象徴となった天皇 (10)	
2 章 参政権と国務請求権——国家の車輪システム——	18
1 民主主義のサイクルとルート (19) 2 参政権 (1) 選挙権 (20) 3 参政権 (2) 司法へのチェック、憲法改正国民投票 (28) 4 国務請求権 (30)	
3 章 精神的自由権 (1) ——表現の自由——	38
1 「表現の自由」の価値と弱さ (39) 2 表現の自由と民主主義 (45) 3 表現の自由とさまざまな権利の衝突 (49) 4 表現の自由と共存社会 (56)	
4 章 精神的自由権 (2) ——思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由——	64
1 精神的自由権の歴史と地図 (65) 2 思想・良心の自由 (65) 3 信教の自由 (70) 4 学問の自由 (74)	
5 章 人身の自由と法の適正手続——人権の足元——	83
1 人身の自由 (84) 2 法の適正手続 (87)	
6 章 経済的自由——大きな流れと個人——	99
1 「自由」獲得から福祉国家型制約へ (100) 2 財産権 (103) 3 職業選択の自由、居住・移転の自由 (106)	
7 章 知的財産権と憲法——教育現場のリテラシー——	117
1 知的財産とは (118) 2 著作権法の基礎知識 (119) 3 著作権と憲法の関係 (123)	
8 章 社会権——人間らしい生存のために——	132
1 福祉国家とは、社会権とは (133) 2 生存権 (134) 3 働く	

人の権利 (139)

9 章 教育を受ける権利と児童の権利——教育者の使命とは—— 147

- 1 誰の「権利」、誰の「義務」? (148) 2 教育内容の「平等」と「自由」 (153) 3 教育の環境 (158)

10 章 幸福追求権と新しい人権——「公共の福祉」と人権—— 166

- 1 人権保障の基本原則 (167) 2 13条を根拠とするさまざまな権利 (171)

11 章 人権の享有主体——「個人の尊重」と「国民」—— 181

- 1 人権の享有主体 (182) 2 国民 (182) 3 外国人 (187)
4 法人 (191) 5 天皇・皇族 (192)

12 章 法の下での平等、家族における平等—— 198

——多様な個性が花開く共存社会へ

- 1 世界史の視野で考える「法の下での平等」 (199) 2 「法の下での平等」が問題となるさまざまな場面 (203) 3 家族関係とジェンダーの平等 (207) 4 多文化社会と平等——課題は続く (212)

13 章 統治 (1) ——国民主権と国家の仕組み—— 219

- 1 立法と国会——意思決定の作用と機関 (220) 2 行政と内閣——国政の実行 (230) 3 財政——国政にかかるお金のやりくり (235) 4 地方自治——ローカルな自己統治と「住民」 (237)

14 章 統治 (2) ——司法と憲法保障—— 247

- 1 司法権と裁判所 (248) 2 憲法保障の重要課題 (256)

15 章 安全保障と平和主義——廃墟から芽吹いたルール—— 262

- 1 「平和のうちに生存する権利」と「戦争・武力の放棄」 (263)
2 国際社会のなかで揺れる憲法9条 (266) 3 環境・災害と「平和のうちに生きる権利」 (272) 4 「集団的自衛権」問題と日本の岐路 (275)

教員採用試験エクササイズ解答—— 282

主要判例索引

キーワード索引

■コラム目次

- 1-1 憲法音頭 (12)
- 1-2 日本における「主権の転換」とボツダム宣言 (14)
- 2-1 選挙と政治活動と18歳 (26)
- 3-1 芸術の自由——ドイツを参考に (43)
- 3-2 プライバシー権と忘れられる権利 (54)
- 3-3 表現の自由とヘイトスピーチ——シャルリ・エブド事件から考えてみよう (59)
- 4-1 京大ボボロ事件から「学問の自由」を考える (78)
- 5-1 奴隷制の克服と人身売買や虐待の禁止 (86)
- 5-2 正義に名を借りた暴力を防ぐために (96)
- 6-1 契約の自由と児童の保護、消費者保護 (113)
- 7-1 著作権の保護期間を考える (127)
- 8-1 学生生活と働く人の権利 (140)
- 8-2 勤労者としての教員 (143)
- 9-1 教育法規の骨組み (149)
- 9-2 無戸籍の子ども (152)
- 9-3 「児童の権利条約」 (161)
- 10-1 人権の世界史と「公共の福祉」の2つの意味 (169)
- 10-2 環境権 (172)
- 10-3 パブリシティ権と肖像権 (175)
- 10-4 スポーツ権の確立と憲法 (177)
- 11-1 無国籍 (186)
- 11-2 公務員と人権 (193)
- 12-1 多様性の尊重とマイノリティの権利——学校現場での配慮 (210)
- 12-2 社会のなかで起きる人権侵害をどう考えるか? (214)
- 13-1 議院内閣制と音楽家ハンデル (227)
- 13-2 「会議の公開」と主催者の「知る権利」 (229)
- 13-3 「地方自治」と教育制度 (241)
- 14-1 国政と主権者の眼——裁判の公開と裁判員制度 (253)
- 14-2 学生と教員の裁判見学記 (255)
- 14-3 憲法保障と憲法改正の限界 (258)
- 15-1 国際社会のなかの日本国憲法 (270)